

# テーマ:身近な生き物 (対象年齢:0~5歳児クラス)

品川区立中原保育園

## テーマの設定理由

園庭や戸外活動中にも子どもの周りには身近な自然物があふれている。その中で自分の目で見たり見て動くものを指で追ったり、実際に手に取って触れられる虫や生き物は瞬間的に子どもの心を動かすとともに好奇心を育み、発見や気づきが探求心を広げ深めていくため

## 活動名:初めての出会い(事例:1歳児クラス)

活動のねらい:自然と触れ合うことの楽しさを感じる

## 用意した環境

飼育ケース、みかんの葉っぱ、  
湿らせたティッシュペーパー

## 活動内容

- ・園庭で遊んだ時にみかんの木を見る
- ・飼育ケースを用意してクラスで飼うことにした

## 子どもたち様子

- ・園庭で遊んでいると、みかんの木を見に行ったり葉っぱに手を伸ばそうとしていた。
- ・幼虫の変化した様子に気がつき友達や保育者に知らせに来る姿があった
- ・葉を食べている様子や糞が落ちているのを見て、「たべてるね」「うんちいっぱい」とつぶやく姿が見られた。



## 保育者の振り返りと気づき

- ・あげは蝶の幼虫は、自分では探せないなので、保育者のきっかけ作りが必要だと感じた。
- ・いつでも観察できるように室内で飼育すると、遊んでいる中でも見たいという姿があり、より興味を引き出すことができた。
- ・小さいながらも、生き物に対して優しくしようとする姿が見られ、心の成長も育まれていると感じた。

## 活動名:ちょうちょで散歩(事例:1歳児クラス)

活動のねらい:蝶になりきることで、  
生き物への興味を高める

### 用意した環境

製作した蝶の羽

### 活動内容

- ・蝶の羽を背負って散歩に出かける
- ・身近な虫を見つけて見たり、真似して飛んだり(走ったり)する

### 子ども達の様子

- ・青虫を育てていた時に作成し、数回着用した蝶の羽を覚えていて、羽を見ると付けたいと興味をもっていた
- ・羽を背負って散歩に出かけると小さな蝶を見つけ、しゃがんで見たり真似をして走ったり手を羽ばたかせたりして楽しんでいた



### 保育者の振り返りと気付き

- ・虫かごに入っている青虫に興味をもち、青虫から蝶に変化していく様子を見て蝶への興味を広げていくことができた。
- ・子どもの興味を保育の中で活かせるよう、クレヨン画(羽)を通し、散歩へつなげることで子どもたちの興味が継続的に深まることを実感した。
- ・興味のある物を遊びの中に取り入れ、蝶になりきってみるという活動を通して、観察をしたり表現をしたりするなど興味関心を様々な角度から広げていくことが大事であると感じた。今後も探求心を育みながら、継続的な保育を行っていく。

## 活動名:カブトムシと遊ぼう!(事例:3歳児クラス)

活動のねらい:自分だけのカブトムシを作って遊ぶことを楽しむ

### 用意した環境

カブトムシの載っている図鑑、カブトムシを飼っている飼育容器、折り紙、シール木に見立てた波段ボール

### 活動内容

カブトムシを観察した後、折り紙でカブトムシを作る。自分だけのカブトムシとして木に貼り付けたり、ドールハウスを家に見立ててごっこ遊びをしたりする

### 子ども達の様子

- ・クラスで楽しんでいる折り紙でカブトムシが折れることを知ると「黒にする」と好きな色を選んだり、「角長くしたい」と出来上がりのイメージをしたりして意欲的に折り紙に取り組んでいた
- ・出来た折り紙を保育室の壁にある木の近くで動かしたり、「高い場所にしよう」と好きな場所に貼り付けたりして本物のカブトムシに見立てていた
- ・ドールハウスをカブトムシの家に見立てて「お家に入ろう」「ここで寝る？」と友達とやりとりをして楽しんでいた



### 保育者の振り返りと気付き

- ・幼虫を触ると弱ってしまうという子どもの気付きから、製作でカブトムシを作って触れるようにした。カブトムシの色、角を折り曲げる角度等考え、自分だけのカブトムシを折り紙で作る事で愛着をもつことができた。
- ・保育室に木を用意する事で、折ったカブトムシを木の近くで動かしたり、貼り付けて本物のカブトムシに見立てて遊ぶ姿が見られた。
- ・ドールハウスの中にカブトムシを入れて、お家ごっこをする子どもの姿も見られた。実際の生態とは違っても、自分の身近な生活に見立てて遊んでいる姿に子どもの想像力の広がりは無敵だと感じた。

活動名:カブトムシ、大きくなったかな  
(事例:3歳児クラス)

活動のねらい:自分が経験した事を、保育者と一緒に試してみようとする

## 用意した環境

カブトムシの幼虫、黒画用紙、お皿、スケール、  
プラスプーン、新聞紙

## 活動内容

カブトムシの幼虫の重さをスケールを使って測り、大きさの違いに気づこうとしたり気づいたことを保育者や友達と共有したりする

## 子ども達の様子

- ・身体測定の後でカブトムシの重さを測ることを話すと「カブトムシも大きくなったかなするの?」とわくわくした様子だった。
- ・幼虫をスケールに乗せるとフンを2回し、フンを取り除くと数値が下がった事に気づき「ちょっと軽くなった?」と興味津々だった。
- ・測り終えた後は幼虫の重さを書いた一覧を見ながら、友達と「これが1番重かったね」「これが2番目で3番目はこれ」と気づいたことを伝えあっていた。



## 保育者の振り返りと気づき

- ・子どもたちの身体測定の後には活動を設定したことで、幼虫の重さを測ることに興味をもっていた
- ・幼虫の大きさや形が見やすいように黒の画用紙を下に敷くことで幼虫の輪郭や大きさが分かりやすくてよかった。
- ・幼虫の大きさをスケールで可視化する良い機会となり、幼虫を測った後に他の物も測ってみたいとブロックやままごと玩具などを測っていて、数や大きさの違いの興味へのきっかけになっていると感じた